

留学先国名 : イギリス

留学先学校名 : リーズ大学

留学期間 : 平成 27 年 4 月 13 日 ~ 平成 27 年 9 月 11 日

この度私はイギリスのリーズ大学に 5 か月間奨励留学していました。この半年間で自分にとって影響があったこと、成果として得ることが出来たことなどを報告させていただきます。

最初に語学についてですが、私は奨励留学の生徒として渡英していたのでリーズ大学の授業を取ることはできませんでした。しかしながら、その代わりに集中的に英語能力を向上させるための授業が多く用意されており、英語を学ぶのはとても良い環境でした。私は term3 と summer course の 2 つの期間に在籍していましたが、授業時間は曜日、term によって異なっていました。私は term3 で自由選択の授業として取った discussion の授業が特に印象に残っています。なぜなら、当初この授業は内気な私にとって極めて難しいものだったからです。毎回の授業でみんなの前で意見を言うのは当たり前で発言力が必要とされる授業でした。しかし授業が進んでいくにつれて自分の意見を英語で発言をすることにも抵抗がなくなり、英語で他人を説得することや自分の意見を理解してもらうにはどうすべきかなどを学びました。日本ではこのような英語の授業がなかったので自分にとって貴重な体験だったと考えています。この授業で学んだことを完璧にできるようになれば自分の将来の仕事にも大いに役立てることができるので、帰国しても英語能力を維持し向上させていきたいと考えています。

2 つ目に文化についてです。私は 4 月から 7 月上旬までホームステイをしていました。ホームステイ先ではイギリス人のホストマザーとマレーシア人のマザーの友達と暮らしていたのでイギリス人の日常生活を体験することができました。その期間で 1 番記憶に残っていることがあります。それはイギリスの下院選挙です。私が彼女らと暮らしている間にイギリスでは選挙がありました。彼女らは帰宅するといつも選挙について議論をしていました。日本とは非常に違いがあるなと感じました。なぜなら、今の日本では投票率は下がり続けており、私の周りにこのように政治について熱心に議論をしている人たちがいなかったからです。私は彼女らに「日本の政治は今どんな状況なのですか？」と聞かれ、うまく英語で説明することが出来ませんでした。そのため、私は自分の国である日本の政治にもっと関心を持たなければいけないなと感じました。

3 つ目に文学についてです。私の専攻はイギリス文学なので今回の留学は特別なものでした。London には Shakespeare と Charles Dickens の博物館があり Leeds の近くにある Haworth にも Brontes の博物館がありました。イギリスのほとんどの博物館には学生割引があり学生にはとても良いと思います。私は卒業論文を書く予定なのですが、どの著者のどの作品について卒業論文を書くのかまだはっきりと決めていませんでした。しかしながら、今回の語学留学で多くの博物館を訪れることができ、自分が卒論として書きたいものを発見することができました。やはり、現地の博物館を訪れることはとても効果的であり、日本で資料を読むだけとは大きな違いがあると感じました。今回、博物館で得た知識を大いに自分の卒業論文に活かすつもりです。

最後に、これから留学する人へアドバイスをいくつか述べさせていただきます。まず第 1 にどこに留学するのかは関係なく、日本のことについて精通していることに不足はないと考えます。私が留学していたイギリスだけではないと思います。例えば、私は日本における現在の天皇の役割や日本の捕鯨に関して聞かれました。私は大まかな概略しか述べる事が出来ませんでした。私はその時に質問してきた相手に対して失礼な事をしたと感じました。なぜなら、私が相手の国について質問した際に彼はとてもわかりやすく説明してくれたからです。彼の自分の国を知ってもらいたいという熱意がとても伝わってきました。このように自分の国に関する事を聞かれてしっかりと答えることはある種のマナーであるとイギリスで感じました。第 2 に授業で発言または意見する際のアドバイスです。最初の授業で私は議論の中で発言をしなければならぬとかなり焦りました。そしてとりあえず発言をするのですが、その発言を support する理由や具体例が非常に難しかったです。自分の意見を英語で発言することは難しくないのですが、自分のその意見を強固にし、相手に理解して納得させるということが留学中ずっと私の課題でした。その為これから留学へ行かれるなら英語でディスカッションをして相手を納得させるという練習をしていたらとても役に立つと考えます。

そして、私はおおさかグローバル奨学金を大阪府から受給していただいております。私は今回の留学で多くのイギリス人が大阪を知っていることを知りました。しかしながら、彼らは大阪という名前しか知らず他のことは全く知っていませんでした。私は 2020 年の東京オリンピックが多くの海外の人達が大阪を知ることのできる絶好の機会だと考えています。その為東京オリンピックを見に来た海外旅行者が京都、大阪を観光し関西国際空港から彼らの母国へ帰るというルートを考えるべきだと思いました。そのためには関西国際空港からより多くのヨーロッパへの直行便が必要であり 2020 年までに増便できるのならば増便すべきと感じました。

最後に、今回のイギリスへの留学は自分の夢の 1 つだったのですが、自分がイギリスへ語学留学したいと言った時に二つ返事で承諾してくれた両親や家族、相談に乗ってくれた友達、私の指導主任、大学の職員の方々に感謝しています。語学以外にも多くのことを学ぶことができました。